

品名	新税率	舊税率
鐵の層及故	無稅	每百斤 〇・一八 ^四
鐵接の鐵管	每百斤 二・五〇 ^四	每百斤 一・一〇 ^四
鐵製の鏈(五百グラム以下のもの)	從價三割	每百斤 二・〇〇
スト ^一 製 ^二 鐵 ^三 物 ^四	每百斤 一三・七〇	每百斤 二・七〇
其他の物	每百斤 一三・四〇	每百斤 九・六〇
部分其他	從價四割	每百斤 二・〇〇
品其他	從價四割	每百斤 七・五〇
ミリングカッター、ギアカッター	無稅	カッター 每百斤 一三・〇〇
機械用鋸	無稅	機械用鋸 每百斤 一・一〇
ニッケル塊及粒	無稅	每百斤 四・七五
同層及故	無稅	從價五分
眞鍮及青銅の條及竿(スチウム用)	每百斤 一六・〇〇	每百斤 七・五五
家屋、橋梁、船舶等の建設材(鐵材以外のもの)	從價二割五分	每百斤 一・九〇

●鐵鋼に關する企業 各新聞紙上に傳ふる所を集録すれば左の如し。

岸本製釘所の擴張 岸本製釘所にては年額三十萬樽の生産能力あるも、鐵材不足の爲め二十萬樽内外の製造に止め居れるか、戰亂以來海外よりの洋釘輸入杜絶せる結果内地

の需要の激増と支那印度南洋方面の註文増加せるより、此の際原料の一部を自營せん計畫あり、昨冬來尼ヶ崎工場にて製造を始め、年額約四五萬噸の生出能力あることを確めたるより、今後の成績により擴張し、原料を自給する外過剰品は一般市場に賣出す計畫なりと、(三月十二日大阪毎日)

大阪製鋼會社設立 在大阪某々有志者の計畫に成る大阪製鋼會創立の議は一時沙汰止みとなりしか、財界の好況に鑑み從來廣谷某の個人經營なりし廣谷製鋼所を現存土地建物機械一切評價十二萬圓にて買收し、更に資本金六十萬圓を募り、主として燻煙防止燃燒機並にセメント製造機械を製作すへしと。(二月中旬大阪各新聞)

高岡鐵工所設立 菅野傳右衛門氏等は今回富山縣高岡市に一大鐵工所を設立する計畫をなし、客臘運動しつゝありしか、今回愈資本金二十萬圓を以て高岡鐵工所を設立する事に決したるか、株式は全部發起人に於て引受くる事となしたりと。(二月十四日中外商業)

鐵管業合併問題 我國の鑄鐵管製造者は大阪鐵工所尼ヶ崎分工場及久保田栗本兩鐵工所にして、豫てより競争を避くる爲め協和組なるものを設け、各官衙諸會社にて公入札ある場合には右協和組にて引受け、之を各自に分配し製造しつゝありしに、時局の影響を受け大阪鐵工所は造船註文に逐はれ、久保田また旋盤の製造多忙にて共に鐵管の製造

は第二となり、自然栗本鐵工所専ら之れに従事せる姿なれと、斯くては不公平なるを以て、三者協議の上或條件の下に鑄鐵管の專業工場を三工場の内何れか一ヶ所に取極むるを有利とし、種々協議中の趣にて多分其實行を見るに至るへしと。(二月廿四日大阪毎日)

川崎造船所擴張 神戸川崎造船所は今回發行すへき社債二百五十萬圓の一部を以て兵庫分工場の鑄鐵設備を擴張し、本邦に於ける供給額少なき棒鐵、板鐵等の製造をなす計畫にて、既に十五噸の鑄鋼爐一個の増設工事に着手したるか、近く更に二十噸の鑄鋼爐一個を増設すへしと。(二月十四日大阪毎日)

機械製造會社 東京瓦斯會社の月島機械工場を二十六萬圓にて買收し、機械製造會社を創立する協議は大體成案を得たる上、資本金二百萬圓株式四萬株の割當も既に決定したるに付き、近く成立を見るに至るへし、株主の筆頭は大阪山口玄洞氏の息嘉藏氏の八千株にして、若尾幾造氏の五千株、馬越恭平氏、大橋新太郎氏等の二三千株、植村澄三郎氏の一千株等なるか、會社成立の上は月島工場の現在設備に十三萬圓をかけ機械を増設し、差當り山口氏の引受け居れる露國信管四十萬圓を取急ぎ製造する方針なりと。

特殊鋼製造開始 横濱市の渡邊福三郎一家の計畫たる府下大森町海岸の日本特殊鋼合資會社は一般工具鋼、高速度鋼、製線用鋼、兵器用鋼其他特殊合金鋼を主として製造す

る目的を以て起れるものなるか、工學士渡邊三郎氏主として擔當し工事進捗に努めたる結果既に工場一部の操業を開始し、來る四月中には製品を市場に供給し得る由なり。(三月十四日東京朝日)

藤田組の合金鐵發賣 我國にて從來外國より輸入せる各種合金鐵は歐洲大亂勃發と共に輸入全く杜絶し、加ふるに我國に於て從來此種製造工業皆無の爲鐵工業家の迷惑一方ならず、至る處其製造方法の發明に苦心中の模様なるか、藤田組にては逸早く此種事業の將來益有望なるに着眼し、爾來大阪築港附近に研究所を新設し専心其製造方法の研究中なりしか、昨年末に至り漸く其曙光を得、第一着手として曩にフェロシリコンの製造發賣を開始して好成绩を得、益努力する所ありしに、今回又た研究中なりしフェロクローム、フェロタンングステン、フェロモリブデンの製造發賣を開始する事に決し、十二日之れを公表したりと、右三合金鐵の昨今の相場を聞くに、標準品にて一噸建フェロクローム約千二百圓、フェロタンングステン約一萬五千圓、フェロモリブデン約三萬圓見當なりと、而して藤田組にては該合金鐵製造工場として名古屋附近に新設中なるか、其後電力料問題にて行惱みとなり居れば、差當り上述築港附近の研究所にて製造する由。(二月十五日大阪朝日)

製鐵會社大合同の計畫 若松製鐵所擴張と相對して民間に一大製鐵所を建設せんとの議、過般來、澁澤、中野、近

藤、藤山、大橋、倉知等の實業家間に専ら斡旋せられ、目下各方面に就て設立に要する各般の研究を進めつゝあるか、右は全國に亘る大資本家を網羅し、可成全國に散在する小規模の既設事業をも一丸とし、五千萬乃至一億の資本を以て設立し、原料鐵鑛は某會社か新に某地に得たる某鑛山に仰き、平時戰時を通して鐵材鐵鋼を廣く内外に供給する方針なるか、設立上資本の廣大なると、熟練なる技術員職工を得る事、官業との營業上の關係につき急速に進行せしめ能はざる事情ありて、豫め諸種の研究を要する點あり澁澤男か曩に主務官廳を訪ひ、東京商業會議所か十日臨時總會の議を以て、官設事業の擴張、生産分配上、官民兩事業の關係につき建議案を決定せるは、専ら此邊の消息を漏したるものにして、進んで製鐵材に對する輸入税と内地の一般工業計畫新會社との關係等をも調査し、設立の進行を圖りつゝあるか、既に三井、三菱、大倉等の大資本家に於ても、熱心右企畫に賛意を表し居れる趣なれば、建設に對する周圍の輪廓備り次第、追て實現さるゝ運ひとなるへしと云ふ。(二月十二日報知)

●製鐵所第三期擴張案討義(貴族院) 既に衆議院を通過したる製鐵所擴張案は直ちに貴族院に廻附せられ二月十五日同院の本會議に附せられたり。

本會議の質疑應答

河野農相説明する所前號所掲衆議院に於ける同じ、高木兼寛男問ふ本案に

よりて生産する鐵の量幾何なりや且つ年々帝國に要する鐵の額幾何、押川製鐵所長官答製鐵所は第二期擴張にて三十萬噸の産額となり本案の擴張にて六十萬噸を産する計畫なり、輸入額は大正三年は五十七萬噸なりしが之れば戰時の影響を受け減退したるもの故違例に屬し、大正二年の八十萬噸こそ標準とすべけれ、之れに機械類の輸入量二十萬噸を加へ我國鐵及鐵製品の輸入額概算百萬噸なるべく、而して其需要年々増加するを以て十年の後は倍加すべし、久保田讓男問鐵の輸入今後減退するやも料られず政府は將來我國に於て製鐵事業の獨立を圖る意なきや、今後も官業に頼る積なりや或は民業を奨励する積りにや、河野農相答戰亂の結果我國の鐵材供給が重大の問題となりし故第三期擴張を計畫せしなり、又永久的方策としては何分原料鐵鑛の供給十分ならざる故大規模の擴張や民業の奨励も出來ざる次第なるが、併し民業の發達は最も望む所ゆへ原料供給の方法技術者の養成等に關し考慮中にて、將來相當の施設を講ずべし、復問鐵材輸入絶望の今日造船材料に差支なきや農相答造船材料は多少買貯へあり輸入も全然絶望に非ず由て製鐵所の擴張と相俟て其供給に遺算なからんことを期すべし、復問今期擴張の財源に遺算なきか、押川長官答製鐵所の収益は年々約八百萬圓あり今期の擴張財源は之れに頼らんとす、而して其割出方法は年々一割宛遞減するものとせし故遺算なき見込なり、江水千之氏問農相は將來民間製鐵事業の發達に俟つと言はれしが民營の原料は何れに仰ぐ積りなりや、農相答支那方面の鐵鑛に付き調査中なり、久保田男復問何故本案を總豫算と同時に提出せざりしや且つ製鐵所は從來缺損續きなりしに急に多大の収益ありといふも這は一時的のものに非ざるか武富藏相答總豫算編成當時は財政上到底製鐵所の擴張を許さざりしが、其後鐵の需要増加し収益を財源とする見込立ちたるを以て追加豫算として提出したる次第なり、且又製鐵の需要最も大なるは陸海軍なるを以て將來も其需要急減することなかるべく、又其収益は將來の下落を見込み頗る内輪に見積れる故財源に不安なし、是にて質問を了へ豫算委員會に廻附せり。

豫算委員會に於ける經過

二月十六日本案に關する豫算委員總會を開く、目賀田種太郎男問(一)此回の擴張によりて生ずる鐵は陸海軍鐵道等主として政府關係筋に用ゐる積なりや(二)製鐵事業は他日民業に移す積りか(三)官業の擴張よりも寧ろ民業の發展を策する方時勢に適せずや(四)製鐵原料の缺乏補給に對する政府の應急策